

図書館情報学橋会会報 第21号(通号27号)

2017年3月発行 発行者 図書館情報学橋会

素晴らしき先輩達の心意気を繋いでいきたい 15

図書館を心から愛したひなげしのような女性

—— 気谷陽子さんのこと ——

図書館情報学橋会会長 森 茜

筑波大学附属図書館での出会い

私が気谷陽子(きたに ようこ)さんと出会ったのは、私が筑波大学附属図書館(以下「筑波大図書館」)に赴任した1996年のことだ。今ではレジェンドの域に入ってしまったが、つくば市は、昭和38年(1963)の閣議了解で始まった先端研究と高等教育の全く新しい形の人工都市だ。筑波大学は、この研究学園都市の目玉機関として旧教育大学から改組新設され東京から移転した。開発当時、この地は、霞ヶ浦の影響のもと、掘ればすぐ液状化現象を起こすヤワな土地で、大学施設の建設は大変なもので、職員は長靴で通勤したとの話がまことしやかに伝えられている。とはいえ、新天地に全国から集まってきた職員たちは強者ぞろいで、意気軒昂であった。筑波大図書館もその例に洩れず、進取の気概に富む優秀な図書館員が揃っていた。気谷さんもその一人だ。そんなわけで、筑波大図書館は運営やサービスで画期的な取組みに定説があった。私が赴任したとき、つくば市は既に建設から四半世紀経っており、緑に覆われた自然豊かな都市に生まれ変わっていたが、進取の気風は変わらず、図書館では、全国初の試みとして「大学図書館ボランティア」を導入しようとしており、気谷さんはその直接の担当者だった。

大学図書館ボランティアと気谷さん

公共図書館のボランティアさえ普及していなかったこの時期に、大学図書館にボランティアを導入するというのは、大学教員や学生たちの抵抗が大きく、理解を得るための労は大変な模様だった。神聖なる大学図書館のカウンターに一般市民と一緒に居るということに、教員からは研究に邪魔であるとか、学生からは高度な学習活動に弊害であるとかの声が高く、一方、ボランティアはボランティアで、オンブズマンのようなつもりで参加し、図書館運営の阻害要因とさえなり

かぬない状況であった。そんな中、気谷さんは、根気よくボランティアとの信頼関係を築き、ボランティアの能力を引き出し、頑迷な教員達を味方につけ、ついに、大学として図書館ボランティアを受け入れるという状況を作り出した。これには、つくば学園都市という民度の高い市民に支えられた側面も否めない。例えば、外国語ボランティアは開発途上国を含め常に5カ国語くらいの人材がいる。また、朗読ボランティアは数学や物理を学ぶ旨の院生等のために、共に学ぶという姿勢で、テキストを朗読する。これらは、気谷さんが、学生や教員、ボランティアと共に開発したノウハウだ。昨年、筑波大図書館のボランティアは20周年を迎えた。継続された努力に敬服するとともに、とても嬉しく思う。きっと、気谷さんも嬉しく思っているだろう。

ころざし半ばの死

気谷さんも喜んでいだろうと書くのには理由がある。彼女は、昨年11月初め、まるで、風のように世を去ったからだ。向学心が豊かで、1973年図書館短大卒業後、筑波大図書館で働きながら、放送大学で学士、その後、図書館情報大学の大学院で修士と博士の学位を得、そののちは、放送大学や聖学院大学・跡見女子学園大学等いくつかの大学で図書館学の講義をし、学生に教えることをことのほか楽しんでいて、様々な研究費を獲得し、研究も深化させていた。橋会でも、長い間、理事や監事を務めてもらった。根っからの図書館好きである。

彼女は歌が好きだった。お姉さんのピアノ伴奏で「オンブラマイフ」をよく歌った。図情大メディア・ユニオンのホールでも、国連大学のホールでも歌ってもらった。オンブラマイフ、我がふるさとよ、と。ひなげしのような可憐な姿で歌う澄んだ声が、今でも、いつでも、私の耳に聞こえている。

◇ 永年のご薫陶ありがとうございました ◇

平成 29 年 3 月をもってお二人の先生がご定年となりご退職されます。ありがとうございました。

岩澤 まり子 教授 【専門】情報組織化論、情報探索論
川原崎 雅敏 教授 【専門】情報通信ネットワーク

☆ 活躍する同窓生：会員便り ☆

地域の司書として～公共と学校～

糸野（佐藤）あづみ

図書館情報大学 平成 13 年卒業
図書館情報大学大学院情報メディア研究科
博士前期課程 平成 15 年修了

宮城県岩沼市は、仙台の南側にある人口 44,000 人ほどの市です。岩沼市では初めての司書区分の採用試験を受けて、平成 15 年に採用されました。岩沼市図書館での通常業務に加えて取り組んだ新館建設は、東日本大震災の影響を受けながらも*、平成 23 年に岩沼市民図書館に結実しました。その後平成 27 年に岩沼市立岩沼西中学校に異動し、現在は学校司書として勤務しています。

学校図書館に異動して面白く感じたのは、サービス対象が全校生徒と教職員に決まっており、人数が明確で反応を見やすいことでした。

先生という存在は力強く感じました。新着図書等の紹介をし、個別に各教科や道徳に関する資料を提供することで、間接的に生徒に図書館資料を紹介しています。栄養教諭と相談し、小説に登場するメニューの再現を試みる「小説メニュー」を給食で出してもらい、残量を減らしました。また養護教諭から蔵書構成に不足する分野を聞き取り、精神医療に関する資料の充実を図りました。

保護者の方々からは、PTA 活動や式典等の機会に、岩沼市民図書館で受けた対応について声を掛けられることがあります。日常に埋もれてしまいがちなやり取りも覚えられていると身が引き締まります。

司書教諭、図書館教育主任、図書委員会担当等の先生方がいらっしゃるとはいえ、学校図書館を担っているのが自分一人であるということに重責を感じることもあります。レクリエーションとしてのみではない図書館の利用体験を持てるように、図書館サービスを提供していきたいです。

*公開シンポジウム「一絆一図書館と震災を語り継ぐ」で当時の様子をお話する機会をいただきました。会報第 14 号 p.6-7 既報。

(いとの(さとう)あづみ 岩沼市立岩沼西中学校)



東日本大震災関係資料コーナー

☆ 会員の活動拝見 ☆

自著を語る：

『図書館ノート—沖縄から「図書館の自由」を考える』

山口 真也

図書館情報大学大学院図書館情報学研究科
修士課程 平成10年修了

2016年8月に『図書館ノート—沖縄から「図書館の自由」を考える』という単著を出版しました。専門誌『みんなの図書館』に約5年間連載した同タイトルのエッセイの中から31回分を選び、加筆修正したものです。ほかに沖縄問題と図書館の自由との関係を考えて少し長めの序論と、図書館の自由委員会委員長である西河内靖泰先生へのインタビューも掲載しています。

図書館情報大学には大学院から2年間通いました。修士論文では、東京山谷地区を中心としてホームレス問題について取材した内容をまとめましたが、その中ではじめて図書館の自由という考え方があることを知りました。大学院修了後、司書課程の教員として職を得て沖縄にわたり、18年が経過しました。振り返ってみると、基地問題、差別問題など、ポリティカルな問題を抱える沖縄だからこそ、図書館の自由についてより深く考えることができたように思います。

本書刊行後、書評やSNSでもその点を取り上げていただき、褒めていただくこともありましたが、

沖縄で生活をする機会を得た図書館人であれば、誰にでも書ける内容だということも自覚しています。連載を1冊にまとめる段階で、「図書館の自由は難しい、わからない」としか書いていないことにも気付かされました。いつになる

かはわかりませんが、もし2冊目のノートを出版する機会があれば、図書館の自由と沖縄問題の接点をもっと正しく写し取り、伝えていけたらと思っています。

(やまぐちしんや 沖縄国際大学総合文化学部
日本文化学科)

書誌事項:『図書館ノート—沖縄から「図書館の自由」
を考える』(教育史料出版会 2016)



電子理事会を開催しました

電子理事会を、平成29年1月7日～15日に開催しました。

1. 総会委任事項の検討

昨年の総会にて委任されました会費額の確定及び会則文言の一部字句修正を検討しました。

2. 理事・監事の交代

理事の退任申し出と監事の逝去により、新理事・監事を決定しました。平成28年秋に逝去されました 気谷陽子氏のご冥福をお祈りいたします。

就任 理事：三浦 敬子 (国情修 平9年 日本図書館協会)
河手 太士 (国情修 平10年 天使大学図書館情報課)
監事：遠藤 茂樹 (短別 昭51年)

退任 理事：相原 雪乃 (国情 昭60年 北海道大学附属図書館)
遠藤 茂樹 (短別 昭51年)
監事：気谷 陽子 (短文 昭48年)

図書館短期大学の跡を訪ねて

栃谷 泰文

図書館短期大学（図短）が昭和 56（1981）年 3 月に閉学になり 36 年になる。筆者は、別科を卒業した数年後に閉学となり、その後、訪問することもなかった。図短は閉学後、放送大学の学習センターとなったことは知っていたが、そのセンターが大塚に移ったあと、どうなったか全く知ることはなかった。そこでほぼ 40 年ぶりに跡を訪ねてみることにした。

1 月の暖かい土曜日、渋谷から東急バスに乗り、バス停「学芸大学付属高校」で降りてみると、むかしと同じ道路と郵便局があり、通学した頃と変わらない。しかし道を進んでいくと、かつての場所には、授業を受けた校舎やバトミントンに興じた体育館は跡形もない。



校地の跡：区立下馬中央公園

一面が公園になり、正門があったところには山吹色の新しい保育園が建って、子どもたちの声が聞こえてくる。公園には遊具も置かれ子どもたちが遊び、幼児を遊ばせる土曜日の昼らしい光景である。見て回ってもかつて図短があつたことを示す碑があるわけでもなく、その頃を偲ばせるのは立派に育った木々だけである。



旧正門付近：保育園

当時と変らぬ閑静な住宅街を通って東横線「学芸大学前」駅にでると商店街は以前に増して賑やかであった。

※Google Map で当時の住所（世田谷区下馬 4-1-1）を入れると、2009 年（放送大学習センター）から 2016 年までの Street View が見られます。

（橋会理事 とちたに やすぶみ 【短別 昭 53】）



当時の校舎全景



旧校地の現在（2015 年頃か） Google Map から

図書館情報学橋会

〒305-8550 つくば市春日 1-2 E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <https://tachibana-kai.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/lib.info.tachibanakai/>

発行：2017 年 3 月 10 日